

急傾斜事業における新技術の活用例 下井仁725地区（安芸太田町中筒賀） 広島県

平成21年に事業着手した当該地区においては、「日本の棚田百選」である「井仁の棚田」の風景と、急傾斜地崩壊防止施設の調和を図ることが求められていました。

また、待受擁壁と落石防護柵による斜面对策の計画箇所には、「御神木」と謂れのある木が存在していたことから、掘削等の影響を低限できる高エネルギー吸収防護柵工を採用し、**地域の要望と土砂災害対策を両立**しました。

対策年度：平成24年度
対策箇所：広島県山県郡安芸太田町中筒賀
防護柵延長：219m
（うち高エネルギー吸収防護柵の延長21m）
採用技術：支柱間にパネル式のワイヤメッシュネットを設置した構造で、ネット面で崩壊土砂や落石を捕捉
スロープガードフェンス
（NETIS《HR-100008-A》）

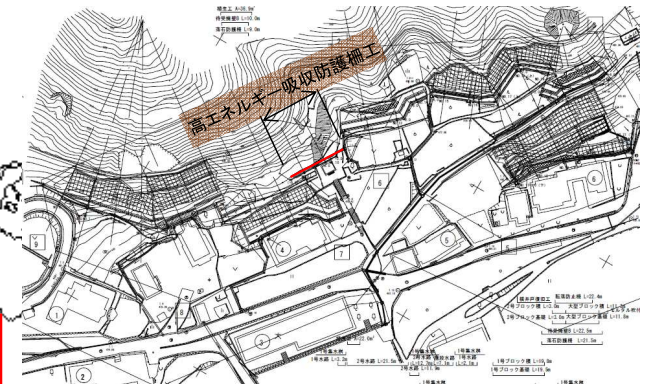
※ 支柱本体が杭構造であるため基礎構造と併用することができ、周囲への施工影響の低減や施工期間の縮減が可能

位置図



広島県山県郡安芸太田町中筒賀
（下井仁725地区）

平面図



地区の完成全景



©いにびちゅ会

収穫期の「井仁の棚田」の状況と山裾の急傾斜地崩壊防止施設



景観にも配慮した高エネルギー吸収防護柵